



# 世界への最後の警告

神のみ業完成のシナリオ

大争闘シリーズ No.10



大争闘シリーズ No.10

# 世界への最後の警告

神のみ業完成のシナリオ

(キリストとサタンの大争闘 38 章)

# 目次

## Contents

最後のメッセージ	1
安息日が論争点	4
現代のエリヤたち	8
ふるいの時	11
神の民の経験	14
大争闘の激化	17
後の雨と大いなる叫び	20

## はじめに

昔、起こった真の預言者エリヤと、偽預言者との対決が再び来る。論点は何か？全世界の人々を魅了し、最大の欺瞞をもって洗脳する時がやってくる。いや、すでに始まっている。

カルメル山であったように、終末の最後の宗教改革運動が起こる。世界のあらゆる政治界、経済界、宗教界に巧妙に侵入する世界最大の組織とは何であろうか。その陰謀は暴露される。

神はこの悪の勢力とどのように戦う備えを持っておられるだろうか。神の驚くべき最後の運動が近い将来起こる。

## 最後のメッセージ

「この後、わたしは、もうひとりの御使が、大いなる権威を持って、天から降りて来るのを見た。地は彼の



栄光によって明るくされた。彼は力強い声で叫んで言った、『倒れた、大いなるバビロンは倒れた。そして、それは悪魔の住む所、あらゆる汚れた霊の巣くつ、また、あらゆる汚れた憎むべき鳥の巣くつとなった。』」「わたしはまた、もうひとつの声が天から出るのを聞いた、『わたしの民よ。彼女から離れ去って、その罪にあずからないようにし、その災害に巻き込まれないようにせよ』」（黙示録 18:1,2,4）。

この聖句は、黙示録 14 章 8 節の第二天使によってなされたバビロンは倒れたという叫び

が、くり返して行われる時を指し示すものである。それと共に 1844 年の夏、この使命が最初に与えられて以来、バビロンを形づくっている諸団体にしみ込んだ腐敗状態について語ったものである。ここに、宗教界の恐るべき状態が描かれている。真理を拒否するごとに、人の心はますます暗く、ますます頑固になり、ついには不信に凝り固まってしまう。彼らは、神がお与えになった警告を無視して、十誡の戒めの一つを踏みにじり続け、ついには、それを清く守る人々を迫害するようになるのである。キリストは、ご自身の言葉と、その民の上に投げかけられた侮辱の言葉によって、無視されている。心霊術の教えが教会に受け入れられるに従って、生まれつきのままの心に加えられた抑制が取り除かれるときに、信仰の表明は下劣な罪悪を隠すための覆いとなるであろう。心霊術を信じることは、人を惑わす霊と悪霊の教えに門戸を開き、こうして悪天使の影響は、教会内にみなぎるであろう。

この預言に示された時のバビロンについて、次のように述べられている。「彼女の罪は積み積って天に達しており、神はその不義の行いを覚えておられる」(黙示録 18:5)。バビロンはその罪の升目を



満たし、破滅するばかりになっている。けれども神は、今なおバビロンの中に、ご自分の民を持っておられる。そして、神の刑罰が下る前に、これらの忠実な人々を呼び出して、彼らとその罪にあずからず、「その災害に巻き込まれないように」しなければならないのである。そこで、天から下った天使によって象徴されているところの運動が起こる。この天使はその栄光をもって地を照らし、権威をもって大声で呼ばわり、バビロンの罪を知らせる。この天使の使

命に伴って「わたしの民よ。彼女から離れ去れ」と言う声が聞こえる。これらの宣告は、第三天使の使命と共に、地上の民に与えられる最後の警告である。

## 安息日が論争点

世界は、恐ろしい結果をもたらす問題に直面しようとしている。地の権力者たちは、合同して神の戒めに逆らって戦い、「小さき者にも、大いなる者にも、富める者にも、貧しき者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々に」偽りの安息日を守ることによって教会の習慣に従うよう法令によって命じる(黙示録 13:16)。これに従わない人々はすべて、法律上の刑罰を受けるのである。そして、そのあげく、彼らは死刑に値する者であると宣告されるであろう。他方、創造主の安息日を守ることを命じる神の律法は、それに対する服従を要求し、その戒めを

犯すすべての者に神の怒りを警告する。

こうして問題点が明らかに示される。すなわち、神の律法を軽んじて人間が制定した日曜日

遵守の制度に従う者は、誰でも獣の刻印を受ける。彼は、神の代わりに服従することを選んだその権力に対する忠誠のし



るしを受けるのである。天からの警告は次の通りである「おおよそ、獣とその像とを拝み、額や手に刻印を受ける者は、神の怒りの杯に混ぜものなしに盛られた、神の激しい怒りのぶどう酒を飲」む（黙示録 14:9,10）。

しかし、真理が人の心に明らかに示され、そしてそれが拒否された上でなければ、誰一人として神の怒りを受けることはない。現代に対する特別な真理に接する機会がこれまでになかった者が、大勢いる。第四条の戒めに対する服従

の真の意味が、まだ彼らに示されていない。すべての人の心を見抜き、あらゆる動機を探られる神は、真理を追求する者を誰一人として、争闘の論点について欺かれるままにしてはおかれない。人々は、その法令の真相を知らされずに、それを強いられるようなことはない。すべての者は、賢明な決断を下すに十分なだけの光が与えられるのである。

安息日は、神に対する忠誠の有無を試みる大試金石となるであろう。なぜなら、それは特に論争点となっている真理だからである。最後のテストが人々を襲うとき、神に仕える者とそうでない者との間に、境界線が引かれるであろう。第四条の戒めに反し、国家の制定する法律に従って偽りの安息日を遵守するということは、神に敵対する権力に忠誠を尽くすという表明であり、一方、神の律法に従って真の安息日を守ることは、創造主に対する忠誠の証となるのである。一方は、地上の権力に服従するしるしを

受け入れることによって、獣の刻印を受け、他方は、神の権威に対する忠誠のしるしを選んで、神の印を受けるのである。

これまで、第三天使の使命の真理を伝えた者は、単に世間を騒がす者くらいにしか見なされないことがよくあった。宗教的圧迫や迫害が、合衆国においてますます激しくなり、教会と国家とが一致協力して、神の戒めを守る人々を迫害するという彼らの予告は、何の根拠もないばかげたことであると評されてきた。この国は宗教自由の擁護者であり、このことは今後も変わりはない、と断固として宣言されてきた。しかし、日曜日遵守を強制する問題が広く論じられるとき、長い間疑われ信じられなかった事件が近づいてくるのが分かり、第三天使の使命は、今までになかったような結果をもたらすことであろう。

## 現代のエリヤたち

神は、どの時代においても、世俗と教会の罪を責めるために、ご自分のしもべたちを遣わされた。しかし人々は、自分たちに対し耳ざわりのよいことが語られることを望み、純粹な、ありのままの真理は受け入れないのである。多くの改革者たちは、その仕事を始めたときに、教会と国家の罪を指摘する場合、極めて慎重な態度をとった。彼らは真のキリスト者として生活の模範を示すことによって、人々を聖書の教えに戻そうとした。

けれども、神の霊がエリヤに望み、悪王と背信の民を譴責させられたのと同じよう



に、彼らにも神の霊が与えられた。彼らは、聖書の明白な言葉、すなわち、これまで伝えることを躊躇ちゅうちよしていた教理を、伝えずにはおれなくなった。彼らは、真理と魂をおびやかす危険とを、熱心に宣言せずにはおられなくなった。彼

らは、その結果がどうなろうと、主が彼らに与えられたその言葉を語った。したがって、人々は、その警告を聞かざるを得なかったのである。

第三天使の使命も、このようにして宣言される。それが非常な勢いをもって伝えられる時が来るならば、主は謙遜な器を通して働かれ、自己をささげて主に仕える人々の心を導かれる。働き人は、学歴ではなく、聖霊を注がれることによって資格を与えられる。信仰と祈りの人は、聖なる熱意に燃えて出て行き、神から与えられるみ言葉を宣べ伝えざるを得なくなる。バビロンの罪は暴露される。政権によって強制的に教会の慣例に従わせることの恐るべき結果として、心霊術の侵入、法王権のひそかではあるが急速な発展などが、みな暴露される。これらの厳粛な警告によって、人々は動かされる。これまで、こうした言葉に接しなかった者が、幾千万となく耳を傾ける。バビロンとは、その誇りと罪のために、すなわち、天来の真理を拒ん

だために倒れた教会であるということを知り、彼らは驚くのである。人々が、彼らのかつての教師たちのところへ行って、これらのことは真実であるかと熱心に尋ねるときに、教師たちは、作り話を語り、耳ざわりのよいことを予言し、彼らの恐怖と目覚めた良心を鎮めようとする。しかし、多くの人々は、単なる人間の権威に満足せず、はっきりした「主はこう言われる」という言葉を要求するので、一般教会の牧師たちは、昔のパリサイ人のように、自分たちの権威が疑われたことを怒って、そのメッセージはサタンから出たものであると非難し、罪を愛する群衆を扇動して、その宣布者たちをあざけり、迫害するのである。

## ふるいの時

争闘が新しい分野に及び、踏みにじられた神

の律法に人々の心が向けられるとき、サタンは騒ぎ出す。使命に伴う力は、それに反抗する人々を怒らせるだけである。牧師たちは、その光が彼らの群れの上に輝かないようにと、ほとんど超人的な力で、それをさえぎろうとする。彼らは、あらゆる手段を尽くして、これらの重大な問題に対する論争を鎮めようとする。教会は、政府の強大な権力に訴える。そして、この働きにおいて、カトリックとプロテスタントは提携する。日曜休業運動が、ますます大胆に、ますます断固として推進されるにしたがって、神の戒めを守る者に対して、法令が発布される。罰金や投獄をもって、彼らは威嚇<sup>いかく</sup>される。そして、ある者は有力な地位によって、また他の者は報賞や便宜の提供によって、信仰を放棄するよう勧誘される。しかし、彼らは断固として、「我々が誤っていることを神の言葉によって示してほしい」と答えるのである。これは、同様の状況の下でルターが行ったのと同じ訴えである。法廷に呼び出された者たちは、真理の力強い弁明

をする。そして、それを聞く者の中には、神のすべての戒めを守るといふ立場をとるように導かれる者が出てくる。こ



うして、他の方法によっては、これらの真理を知ることができない幾千という人々の前に、光がもたらされるのである。

良心の命じるままに神のみ言葉に従おうとする者は、反逆者と見なされる。サタンによって盲目にされた両親は、信仰を持つ子供を残酷無情に扱う。主人や女主人は、戒めを守るしもべを迫害する。愛情は、冷ややかになる。子供たちは勘当されて、家から追い出される。パウロの言葉は、文字通り実現するであろう。「キリスト・イエスにあって信心深く生きようとする者は、みな、迫害を受ける」(Ⅱテモテ 3:12)。真理の擁護者たちが、日曜安息日の遵守を拒む

とき、投獄される者もあれば、追放される者もあり、また奴隷として扱われる者もいる。人間的に考えて、今そうしたことはあり得ないように思われる。しかし、今まで人々を抑制していた神の霊が退き、人々が神の律法を憎むサタンの支配下に陥るとき、異様な事態が展開するのである。神に対する恐れと愛とが取り除かれるとき、人の心は、はなはだ残酷になり得るのである。

あらしが迫って来るとき、第三天使の使命を信じると公言しながら、真理に全く服従することによって清めを受けなかった大部分の者が、その信仰を放棄して反対の側に加わる。彼らは世俗と結合し、その精神を抱くことによって、ほとんど同じ見方で物事を見るようになっていく。そして、大試練が臨むと、彼らはすぐに、安易で一般うけのする側を選ぶのである。かつては真理を喜んだところの、才能ある雄弁な人々は、その力を用いて他の人々を欺き迷わ

す。彼らは、以前の兄弟たちにとって、最も苦い敵となる。安息日遵守者が法廷に呼び出されて、その信仰を取り調べられるとき、これらの背教者たちは、サタンの最も有力な手先となって、彼らの中傷し、かつ訴えるのである。そして、偽りの報告や、あてこすりをによって、彼らに対する権力者たちの怒りをかき立てる。

## 神の民の経験

この迫害の時に、主のしもべたちの信仰が試みられる。彼らは、神と神の言葉だけに頼って、警告を世に向かって忠実に発してきた者である。神の霊が彼らの心を動かして、彼らに語らせたのである。彼らは、聖なる熱意と神の強い力に刺激されて、主が彼らに与えられた言葉を人々に語ることの結果などは少しも考えに入れずに、彼らの義務の遂行に取りかかった。彼らは、現世の利害関係を考えず、またその名声

や生命を保とうとしたりはしなかった。しかし、反対と非難のあらしが彼らに襲いかかるとき、ある者は、驚きのあまり、「もし我々の言葉の結果を予知していたら、我々は黙っていたであろうに」と叫ぶであろう。彼らは困難に取り囲まれる。サタンは、恐ろしい誘惑をもって彼らを攻撃する。そのため、彼らが手をつけた仕事を果たすには、彼らの能力では到底及ばないように思われる。彼らは滅亡に脅かされる。彼らを活気づけた熱意は消失する。しかし、彼らは引き返すことができない。その時彼らは、自分たちが全く無力なことを悟って、全能者のもとに逃れて力を求める。彼らは、自分たちが語った言葉が、自分たちの言葉ではなくて、警告せよと命じられた主のものであったことを思い出す。神が彼らの心に真理の言葉を植え付けた。したがって彼らは、それを宣べ伝えざるを得なかったのである。

過去の時代の神の人々は、この同じ試練に

会った。ウィクリフ、フス、ルター、ティンダル、バクスター、ウェスレーたちは、すべての教理は聖書によって吟味されるべきで、聖書が認めないものはすべて拒否すると宣



言した。ゆえに、これらの人々に対する容赦ない怒りの結果は、猛烈な迫害となった。しかし彼らは、真理を伝えることをやめなかった。教会史上の各時代は、その時代における神の民の必要に応じた特別な真理の発展によって、それぞれ特徴づけられている。新しい真理はみな、憎悪や迫害を押しきって道を開いてきた。真理の光を受けた人々は、誘惑と試練に会った。主は、危急の場合には、人々に特別な真理をお与えになる。いったい誰が、それを布告することを拒むことができようか。主はご自分のしもべたちに、最後のあわれみの招きを世界に向かっ

て提示するよう命じられる。彼らは黙っていることができない。もし黙っているならば、彼らの魂が危機に瀕<sup>ひん</sup>するのである。キリストの使者たちは、結果には関係しない。彼らは自己の義務を遂行して、結果は神に委ねればよいのである。

## 大争闘の激化

反対がいよいよ激しくなるにつれて、神のしもべたちは再び困惑する。なぜならば、彼らには自分自身が危機をもたらしたように思われるからである。しかし、良心と神の言葉は、彼らの道が正しいことを保証してくれる。そして、どんなに試練が続いても、彼らにはそれに耐える力が与えられる。争闘は、いよいよ切迫し激化する。しかし彼らの信仰と勇氣は、危機と共に高揚する。彼らの証はこうである。「我々は、世の歡心を買うために神の聖なる律法を分か

ち、ある部分を重要であるとし、他の部分を重要でないとして、神の言葉に手を入れるようなことはしない。我々が仕える主は、我々を救うことができになる。すでにキリストは、地上の諸権力を征服されたではないか。ゆえに我々は、すでに征服された世を恐れることがあるか。」

種々の形の迫害は、サタンが存在し、キリスト教が生きた力を持っている限り存在する原則の展開である。暗黒の軍勢の反対を受けることなしに、神に仕えることができる者はいない。悪天使たちは、自らの努力によって捕えた獲物が、神のしもべたちの影響によって奪われることを恐れて、彼らに攻撃を試みる。神のしもべたちの模範によって譴責を受けた悪人たちは、悪天使たちと力を合わせて、魅惑的な誘惑をもって神から彼らを引き離そうとする。それでも成功しなければ、今度は強制的な力を用いて良心に強いるのである。

しかし、天の聖所において、イエスが人間の仲保者としておられる限り、聖霊の抑制力が支配者と国民に及んでいるのである。それは今なお、ある程度国家の法律を支配している。もし聖霊の統制下にあるこれらの法律がなかったならば、世界の状態は今日よりもはるかに悪化していたであろう。この世の支配者の多くは、サタンの有力

な手下であるが、神もまた国家の指導者たちの中に、ご自分の代表者を持っておられる。敵は



そのしもべたちの心を動かして、神の働きをばなはだしく阻止するような法案を提出するが、主を畏れる政治家たちは、聖天使たちに動かされて、このような提案に断固として反対する。こうして、少数ではあるけれども、悪の強力な

潮流を阻止する者がいるのである。真理に敵する人々の反対の手は、第三天使の使命がその働きを遂行するために、抑制される。最後の警告が発せられるとき、それは、今主の働きの器になっているこれらの有力者たちの注意をひく。そして、彼らの中のある者はそれを受け入れ、神の民と共に立って、悩みの時を通過するのである。

## 後の雨と大いなる叫び

第三天使の使命の宣布に協力する天使は、その栄光で全地を照らすのである。ここに、全世界的で比類のない力を持った働きが予告されている。1840年から44年に至る再臨運動は、神の力の輝かしいあらわれであった。第一天使の使命は、世界の各伝道地に伝えられた。そして、ある国々においては、十六世紀の宗教改革以来どの国にもなかったような大いなる宗教的

関心が引き起こされた。けれども、第三天使の最後の警告下における大運動は、これをはるかに越えるものとなるのである。

その運動は、ペンテコステの日のそれと似ている。福音の

開始に当たって、貴重な種子を発芽させるために聖霊が注がれ、「前の雨」が与えられたように、



福音の終わりにおいて、収穫を実らせるために「後の雨」が与えられるのである。「この故にわれらエホバを知るべし、切にエホバを知ることがを求むべし。エホバはあしたの光のごとく必ずあらわれいで、雨のごとくわれらにのぞみ、後の雨のごとく地をうるおしたもう」(ホセア 6:3 文語訳)。「シオンの子らよ、あなたがたの神、

主によって喜び楽しめ。主はあなたがたを義と  
するために秋の雨〔前の雨—欽定訳。以下同じ〕  
を賜い、またあなたがたのために豊かに雨を降  
らせ、前のように、秋の雨〔前の雨〕と春の雨  
〔後の雨〕とを降らせられる」(ヨエル 2:23)。「神  
がこう仰せになる。終りの時には、わたしの霊  
をすべての人に注ごう。」「そのとき、主の名を  
呼び求める者は、みな救われるであろう」(使  
徒行伝 2:17,21)。

福音の大事業の終局は、その開始を示した神  
の力のあらわれより劣るものではない。福音の  
開始に当たって、秋の雨(前の雨)の降下によっ  
て成就した預言は、その終局において、春の雨  
(後の雨) となって再び成就するのである。こ  
れが、使徒ペテロが待望した「慰め〔原文では  
refreshing (活気づけ、回復の意)]の時」である。  
彼は次のように言った。「だから、自分の罪を  
ぬぐい去っていただくために、悔い改めて本心  
に立ちかえりなさい。それは、主のみ前から慰

めの時がきて、……イエスを、神がつかわして下さるためである」(使徒行伝 3:19,20)。

神のしもべたちは、きよい献身の喜びに顔を輝かせ、天来の使命を宣べ伝えるために、ここかしこ奔走する。全世界の幾千の声によって、地上に警告が発せられる。神のしもべたちによって奇跡が行われ、病人はいやされ、しるしと不思議が信じる者に伴う。サタンもまた、偽りの不思議を行い、人々の前で天から火を降らすことさえする(黙示録 13:13 参照)。こうして、地上の住民は、その立場を明らかにしなければならなくなる。

使命は、議論によるよりも、神の霊の深い感動によって伝えられる。論拠はすでに述べられた。種はまかれた。そして今、それが生えて、実を結ぶのである。伝道者によって配布された文書は、その感化を及ぼした。しかし、感動を受けた人々の多くは、真理を十分に理解して、それに服従することを妨げられていた。けれど

も、今、光は至るところに行きわたり、真理は明らかにされ、神の忠実な子供たちは、彼らを束縛していたかせを断ち切るのである。家族関係、教会関係は、もはや彼らを止めるには無力である。真理は他の何物よりも尊いのである。諸勢力が力を結集して真理に反対するにもかかわらず、多くの者が主の側に立つのである。

もっと詳しく知りたい方のために、  
大争闘小冊子シリーズの完全版

## “キリストとサタンの大争闘”



E.G. ホワイト著

ポケット版 400円

各時代の人類歴史に展開されてきた善と悪、真理と誤謬の大争闘の真相と悪の勢力の陰謀と策略を明らかにし、それに勝利する方法、今起こっている諸事件と諸現象はどんな意味を持っているか、人類にどんなすばらしい未来が待っているか等々が解明されている必読の書！

お問い合わせ、お申込みは下記の連絡先まで

サンライズ ミニストリー

〒905-0428 沖縄県国頭郡今帰仁村字今泊1471

TEL(0980)56-2783 FAX(0980)56-2881

contact@srministry.com

www.srministry.com

## 大争闘小冊子シリーズ

- No.1 罪惡の起源
- No.2 サタンと人類の戦い
- No.3 悪魔のわな
- No.4 人は死んだらどうなるか？
- No.5 心霊術の正体
- No.6 現代キリスト教会の危機
- No.7 ローマ法王教の狙い
- No.8 差し迫った戦い
- No.9 ただ一つの防壁—聖書
- No.10 世界への最後の警告
- No.11 大いなる悩みの時
- No.12 神の民の救出
- No.13 平和な千年期は来るか？
- No.14 大争闘の終結



サンライズ ミニストリー

〒905-0428 沖縄県国頭郡今帰仁村字今泊1471

TEL(0980)56-2783 FAX(0980)56-2881

contact@srministry.com

www.srministry.com